



DATA
 ●部員数：87人(3年28人/2年19人/1年36人/中学4人)
 ●ジャンル：ヒップホップ、クラブ、ジャズ、BBOYING(ブレイク)



- ストレッチ、筋トレ、アイソレに1時間半以上の時間を割き、徹底的に基礎力を鍛える。この日の振り付け練習は30分程度。
- 現在取り組んでいるクラブのアイソレ。見た目以上にキツイ練習のため、体育会系の部活のように声を出し合って気合いを入れる。
- 「できればヒップホップの歴史も知ってほしい。それがダンスのちょっとした差になるから」という顧問の棚橋先生。



DATA
 ●部員数：30人(2年11人/1年19人)
 ●ジャンル：ロック、ヒップホップ



- 普段の練習場は体育館のステージ。30名の女子部員がひしめき合っている。
- 練習は月曜～土曜まで生徒主体で活動。合同でしっかり話し合う。
- 「ファンタジーロック」と生徒たちが呼んでいるロックダンスを主体としたスタイル。テーマ性を重んじた作品作りが特徴だ。
- 部長の穴太(あのを)さんは、中学時代に生徒会長やバドミントン部を経験し、高校からダンス部に。上の代から部長に指名されたしっかり者だ。

愛知県

桜丘高等学校

「ヒップホップ先生」の愛と戦いのダンス部9年史

ダンス部が取り組むジャンルとして依然圧倒的な人気であるヒップホップのスタイルだが、一口にヒップホップと言っても細かくはいろいろなおスタイルがある。今回訪問した桜丘高校は、全国大会でも他とは違う迫力(イカつさ)とノリ(グルーヴ)で、常にインパクトを残す愛知県随一のダンス名門校だ。

同好会として創設されたのは9年前。元ブレイクダンサーである顧問の先生が発起人だった上に、入部した生徒の生活態度も良い方ではなかったために、当時学内からは白い目で見られることが多かったという。そこで、まずはダンスよりも生活指導ということで、生徒のスカートの長さや髪型から根気強く指導を始めた。やがて生活態度は改善され、学内の評判も変わり、大会でもグングンと成果が上がる。今では桜丘を代表する人気部活となったその歴史は、さながらドラマ『スクールウォーズ』のようだ。先生の熱いダンス愛とそれに応える生徒の情熱と気合い、東海地区のダンス部の雄“MASTER PIECE”が、今年も全国大会で大暴れするかもしれない。

神奈川県

光陵高等学校

未来の頼もしい人材を生む進学校ならではの「集中力」

ダンス部が盛んな進学校は意外なほど多い。一昔前ならばストリートダンスと勉強というと、正直あまり相性の良くない組み合わせだったが、今ではダンス部の強さと学力はある程度シンクロする時代になったようだ。神奈川県に進学校、光陵高校のステージ作品の構築力や練習の勤勉さなどにも、その優秀さがありありと見て取れる。

初心者の入部が70%を占めるという同校ではまず基本的なことを大事に、「皆でできるダンスのレベルを揃える」ことを念頭に練習に取り組んでいる。顧問の先生はバレエの経験者であるが、異動の多い公立高校故に「顧問がいなくてもできる」自主性を伝統として育てるために、ダンス自体への指導は極力控えているそうだ。

優等生が多いせいか、作品作りのミーティングでは各自がしっかりとした意見を持ち、話し合い、協調することができるという光陵ダンス部。勉強や進学への意識の高さが部活動に良い影響を与えていることは、部員一人一人の集中した表情にしっかりと現われている。その力強い目線は、日本の輝かしい新時代を見据えているかのように頼もしい。

ドキュメント

ダンス部の

「日々」

今回は個性的な3つの学校をレポート。高い学力で勤勉性のある進学校、専門性を高める練習法をとる強豪校、そして本コーナー初の関東圏外の学校訪問である愛知のパワフルなダンス部だ！

神奈川県

百合丘高等学校

多くのダンス部員は、強豪ダンス部の動画を見て作品研究をすることが多いのだが、その中でも“ダンス部が憧れるダンス部”として名前が挙がるのが、この百合丘高校ダンス部。歴史は15年ほどで、初期の頃からストリートダンスがベースになっているという。

この百合丘高校ダンス部の一番の特徴は、ダンスジャンルが豊富で、なんとその数全10ジャンル。文化祭・三送会に向けて自分のやりたいジャンルを、1人最高3ジャンルまで取ることができるという。“ジャンルを取る”というあたりが、まるでダンススクールのような外部の大会では、全ジャンルからスキルの高い選抜メンバーだけが出場するため、ジャンルの枠を越えた表現豊かな作品を作り上げることができる。ダンス部の甲子園とも言われる大会「ダンススタジアム」などで、毎年のように全国大会へ進出し、いい結果を残している秘密がここにあるのだ。

メインの練習場となる体育館のギャラリースペースは3ジャンルごとの時間交代制で使用するため、他のジャンルは校舎内の各所に散らばっての練習となる。いくつかの教室は「自主練ルーム」として使われており、窓に自分の姿を映し黙々と練習する者、鏡に向かってひたすらウェーブの練習をしている者など、個々が自主的にダンス研究に励んでいた。「好きこそ物の上手なれ」。義務として“やらされる”のではなく、興味のあるジャンルや得意なジャンルを、“楽しみながら進んで学ぶ”ということが、百合丘高校ダンス部員の個性とスキルアップへ繋がっているのだ。

「ダンス部に入って、ダンスに対する考え方が変わりました」という部長の榮福さんと副部長の大津さんは、元キッズダンサー。ダンス部というインストラクターのいない環境で、生徒だけで作品を創り出す楽しさを感じているようだ。



DATA
 ●部員数：66人(2年31人/1年35人)
 ●活動時間：朝：週3回、放課後：週3回、昼休み：毎日
 ●ジャンル：ヒップホップ、ジャズファンク、ポップ、ブレイク、モダン、ロック、R&B、ガールズヒップホップ、パンキング、ハウス
 ●最近のおもな成績：ダンススタジアム入賞、高校生ダンスコンテスト入賞など



- 各ジャンルリーダーを中心に指導・振り付けが行なわれる。
- ダンスを始めて約10ヶ月の1年生とは思えない程のレベル!
- 歴代の部員たちの苦勞を感じさせるアルミホイルを貼った手作りの鏡。
- 部室前に掲げられたダンス部の格言!
- 部活名「UPDRAFT」にはその第二条の意味が込められている。
- 放課後には校舎各所で部員たちの活気ある姿が見られる。
- 左から、中学時代に独学でダンスを始めた副部長小幡くん・ジャズファンクのダンスリーダー・部長榮福さん・ヒップホップが得意な副部長大津さん。
- 各自の専門性と向上心が全体のレベルアップへ繋がっている。

